

令和6年度

多治見市立小学校・中学校

福祉共育のまとめ

令和6年度に市内の小中学校で行われた福祉共育や体験活動をまとめました。
高齢者や障がい者の疑似体験による思いやりの心の育成、地域や通学路の環境美化による社会貢献活動（ボランティア活動）、高齢者とのふれあい交流など様々な取り組みが行われました。
今後の取り組みの参考にいただければ幸いです。
社会福祉協議会では、学校で行われる福祉共育や体験活動を支援させていただきますので、お気軽にご相談ください。

掲載ページ

養正小学校	・ ・ ・ ・ ・	1
精華小学校	・ ・ ・ ・ ・	3
共栄小学校	・ ・ ・ ・ ・	5
昭和小学校	・ ・ ・ ・ ・	7
小泉小学校	・ ・ ・ ・ ・	9
池田小学校	・ ・ ・ ・ ・	11
市之倉小学校	・ ・ ・ ・ ・	13
滝呂小学校	・ ・ ・ ・ ・	15
南姫中学校	・ ・ ・ ・ ・	17
根本小学校	・ ・ ・ ・ ・	19
北栄小学校	・ ・ ・ ・ ・	21
脇之島小学校	・ ・ ・ ・ ・	23
笠原小学校	・ ・ ・ ・ ・	25
陶都中学校	・ ・ ・ ・ ・	27
多治見中学校	・ ・ ・ ・ ・	29
平和中学校	・ ・ ・ ・ ・	31
小泉中学校	・ ・ ・ ・ ・	33
南ヶ丘中学校	・ ・ ・ ・ ・	35
北陵中学校	・ ・ ・ ・ ・	37
南姫中学校	・ ・ ・ ・ ・	39
笠原中学校	・ ・ ・ ・ ・	41

令和6年4月

社会福祉法人 多治見市社会福祉協議会 地域福祉課

電話 25-1134 FAX 25-1132

養正小学校



○ 今年度の重点活動

テーマ

【福祉「体験活動を通して、差別・偏見のない持続可能な福祉活動を考える」】

内 容

体験や交流活動を通して、身のまわりの福祉について調べたり考えたりする。(募金活動、障がい疑似体験、あいさつ運動、育友会活動との連携)

生徒のコメント

障がい者の方のお話を聞いたり、車いす体験や高齢者の体験をやったりしたことで、そのたいへんさがわかりました。お父さんお母さんたちに発表したときに、笑顔で参加してくれてうれしかったです。

世界には、いろいろな障がいをもった人がいるけど、そんな人たちを支えながら一緒に生きていける社会にしていきたいです。まだまだ知らないことが多いので、これからも障がいとそれを支える方法について学んでいきたいなと思いました。

○ 活動面での総括

◎評価できること

高齢者疑似体験や車いすの体験、視覚障がい者、聴覚障がい者のお話から学んだことを、参観日の時に、実演などをしながら保護者に対して発表する場を作れたこと

△今後の課題

体験活動も増え、保護者や地域の方を学校へ招くこともできるようになったが、子どもたちが地域へ出て活動する場面は、まだまだ少ないこと

○ 広報・啓発活動のまとめ

活動の分野	具体的な内容
講演会・映画会・展示会等の開催	鼓笛演奏を発表する場で、地域の方と交流できた。(運動会、たじみまつり鼓笛隊パレード)
学校新聞、児童・生徒会新聞等の作成	児童の福祉体験や校内の異学年交流活動を、学年通信、広報(育友会が年3回発行)、ホームページなどで、全校児童・保護者・地域の方にお知らせをした。
調査・研究(地域・施設調査、福祉マップ、バリアフリー調査等)	バリアフリーについて教室で学習した後、校内のバリアフリーについて調査した。さらに、まち探検の中で、地域にあるバリアフリーの様子について調査した。

○ 体験学習のまとめ

活動の分野	具体的な内容
福祉施設等への訪問・交流活動	校区に住んでみえる独居老人の方のところに、6年生が年賀状を送ることで交流をもった。施設の訪問などは、以前は実施していたようだが、今年度は実施できなかった。
地域での訪問・交流・体験活動	2年生の生活科まち探検を実施し、地域の方や保護者が見守りボランティアとして参加していただいた。また、発表会に地域の方が参観してくださり、児童と給食も食べる機会をもてた。 4年生の社会科まち探検を実施した。2月の授業参観で、保護者に向けて参加型の発表会を行った。
学校行事への招待	運動会には、保護者だけでなく地域の方にも児童の活動を見ていただいた。養正地域会議の方々も招待した。 2年生の学習発表会には、まち探検で協力してくださった地域の方を招待し、充実した発表会になった。
美化・環境整備活動等	まちづくり市民会議の皆さんの全面協力を得ながら、「花いっぱい運動」に取り組んだ。今年度は、最初に花づくりをまちづくり市民会議から依頼を受ける会をもつことができた。植ええや、苗の植え替えを行い、プレートを付けて地域に配った。また、お世話になっている110番の家にも届けた。
福祉体験	4年生が、車いす体験を校内で行った。また、社会福祉協議会の方に来ていただいて、高齢者体験も行った。視覚障がい者、聴覚障がい者の方に来ていただいて、お話を聞いた。点字や手話などについて、詳しく話を聞くことができた。
学校行事外の参加活動	例年、養正公民館祭に、各学級から作品(習字、絵画)を出品していたが、公民館の改修工事のため、参加できなかった。その他のイベントも、今年度は中止になったものが多かった。
収集・募金活動	児童会を中心に、赤い羽根共同募金への呼びかけと募金活動を行った。多くの児童が参加することができた。 「心のとも」活動を特別支援学級の児童を中心に行った。計画から封筒作成、呼びかけ、注文等、活動全般を進めた。活動に共感し、参加する児童が増えてきた。
	近隣の多治見高校の生徒が来校し、5年生の外国語授業に参加した。(各クラス年2回)外国語指導教師とともに、コミュニケーション活動の補助を行った。 多治見中学校から、職場体験で3名の生徒が来校し、授業中に個別指導をしたり、休みに児童と遊んだりした。 教員のたまご発掘事業で、多治見北高の生徒が来校し、4年生の授業に入り、個別指導などを行った。
その他	



精華小学校



○ 今年度の重点活動

テーマ

障がいについて正しく知ろう

内 容

車イス体験、アイマスク体験
視覚障がいの方の話を聞く会
高齢者体験
盲導犬講話

児童のコメント

アイマスク体験は、実際に白杖を使って動くのはこわかったです。介助の仕方や声のかけ方を知ることができました。

小栗さんの話を聞いて、困っている人がいたら声をかけて、みんなで助け合うことが必要だと学びました。

○ 活動面での総括

◎評価できること

- ・車イス、アイマスク等の体験的な活動を少人数のグループで行うことができたこと
- ・視覚障がいの方の話を直接聞き、学ぶことができたこと
- ・高齢者体験の学習をすることで、高齢者のことを身近に感じる事ができたこと

△今後の課題

- ・学校内の学習器具を整えながら、継続的に学習をしていくこと。

○ 広報・啓発活動のまとめ

活動の分野	具体的な内容
講演会・映画会・展示会等の開催	
学校新聞、児童・生徒会新聞等の作成	・福祉委員会による「赤い羽根共同募金」の呼びかけ ・特別支援学級による「心の友運動」の呼びかけ
調査・研究（地域・施設調査、福祉マップ、バリアフリー調査等）	・バリアフリー調査（総合的な学習の時間）

○ 体験学習のまとめ

活動の分野	具体的な内容
福祉施設等への訪問・交流活動	
地域での訪問・交流・体験活動	・高齢者（独居老人）への年賀状（４年生）
学校行事への招待	
美化・環境整備活動等	
福祉体験	・４年生の総合的な学習の時間におけるアイマスク体験，車イス体験，聴覚障がいの方の話を聞く会、高齢者体験 ・盲導犬講話
学校行事外の参加活動	
収集・募金活動	・アルミ缶回収 ・赤い羽根共同募金
学校間の情報交換・交流等	・居住地校交流（東濃特別支援学校）
その他	



共栄小学校



○ 今年の重点活動

テーマ

【心と心をつなげる】

内 容

- ・さまざまな立場の人々の気持ちや考えを知るための体験活動。
- ・周りの人を笑顔し、共に喜びを感じる活動の企画運営、参加。
- ・学んだことを広げたり、日常生活に取り入れたりすることを考える活動。

児童のコメント

- ・体験をして、高齢者はすごく大変で疲れることが分かった。どこかで困っていたら声をかけて助けたいと思いました。
- ・自分たちで育てたマリーゴールドが地域に飾ってあるのを見て、嬉しい気持ちになりました。町のみんなと助け合いながら大きくなりたいと思いました。

○ 活動面での総括

◎評価できること

- ・3年生では、「花いっぱい運動」「太鼓学習」では、地域の人と触れ合ったり、地域に愛情を感じたりしながら活動がすることができた。
- ・5年生は、白杖体験・車椅子体験・高齢者福祉体験の他、ボッチャを通じた地域の方との交流、保育園児との交流、障がいがある人を講師に招いての講話など、さまざまな人と関わり、自分の考え方や行動について立ち返ることができた。
- ・「〇〇な人のために募金したい」という目的をもち、生活向上委員が中心にアルミ缶回収を行い、収益を募金することができた。

△今後の課題

- ・児童の取り組みや活動をさらに地域に広報していくことを考えていきたい。
- ・学んだことを生かして、自発的な活動につなげていきたい。

○ 広報・啓発活動のまとめ

活動の分野	具体的な内容
講演会・映画会・展示会等の開催	・視覚障がい者の方と聴覚障がい者の方を講師に招き、育ってきた環境や日々の体験について講演をしていただいた。
学校新聞、児童・生徒会新聞等の作成	・生活向上委員会が、「赤い羽根共同募金」のポスターを作り、全校児童へ呼びかけた。 ・「福祉について」のプレゼンを作成し、保護者へ学んだことや考えたことを発表した。
調査・研究（地域・施設調査、福祉マップ、バリアフリー調査等）	・「福祉」について体験したことを元に、興味のあることを調べ、プレゼンを作成した。

○ 体験学習のまとめ

活動の分野	具体的な内容
福祉施設等への訪問・交流活動	
地域での訪問・交流・体験活動	・地域の高齢者の方へ年賀状を送った。 ・地域のサロンの方を招いて、ボッチャ大会を開いた。
学校行事への招待	
美化・環境整備活動等	・マリーゴールドの種を植え、育て、花が咲き始めた7月中旬にメッセージをつけて地域の施設に配布した。
福祉体験	・白杖体験・車椅子体験・高齢者福祉体験を行った。
学校行事外の参加活動	・共栄文化祭に参加し、地域の方から学んで練習した宮太鼓を発表した。
収集・募金活動	・生活向上委員を中心にアルミ缶回収を行い、その収益をユニセフ（前期）、赤い羽根募金（後期）に寄付をした。
学校間の情報交換・交流等	・共栄保育園の年長さんと児童が交流し、一緒に遊んだり、学校探検をしたりした。
その他	・人権意識を高めることを目的に、生活向上委員を中心に、「さわやか挨拶運動」「あいさつの星」活動を行った。



昭和小学校



地域の方とボッチャ交流会



親子でボッチャ体験



市民病院演奏会

○ 今年度の重点活動

テーマ

「そっと やさしく さりげなく」

内容

- ・福祉を特別視するのではなく、いつでも、どこでも、だれにでも福祉は役立っていることを、すべての児童が理解できるようにする。
- ・座学のみならず、体験を通して、一人一人の実感として福祉を理解できる学習を進める。
- ・福祉を通して、福祉を必要としている方はもちろん、地域の方、家族、学級や学校の仲間に対して寛容に接し、良好な関係を築く力を育む。

児童のコメント

- ・障がいのある人を見つけたら「何か、手伝えることはありますか？」と声をかけることが大切だと思います。声を掛けられる人になりたいです。
- ・障がいのある人は、普通の人と同じように生活するために、自分でいろいろと工夫をして暮らしていてすごいと思いました。
- ・みんなでボッチャに取り組んだことが心に残りました。ボッチャは障がいのある人もない人も、みんな楽しいスポーツでした。

○ 活動面での総括

◎評価できること

本校では、4年生の総合的な学習の時間に「福祉」をテーマとした学習を行っている。「福祉」について学びを重ねる中で、福祉の視点から、自分の身の回りのことや、世の中を見直すことができるようになってきた。そのために、さまざまな障がいをもった方を講師として招いて、話を直接聞く体験を通して、当事者が経験した、社会で生活する上での厳しさや、人々のやさしさや温かさを、具体的に学ぶことができた。

さらに、今年度は、パラスポーツの一つである「ボッチャ」に取り組むことを通して、障がいをもった皆さんや地域の方、さらには保護者とも広く、深く交流をすることができた。

△今後の課題

障がいをもった皆さんが、日常生活で使用している機材や体験セットを活用した体験学習を通して、社会の不便さや、バリアフリー社会の実現にはまだ程遠い現実を学ぶことができた。しかし、話を聞いたり体験したりして、実情について知ったり理解したりするところまでであり「自分たちにできること」を具体的に考えたり、「これからの世の中に望みたいこと」を思いつくなど、社会や世の中に働きかけようというところまではいけていない。ただ知る、理解するまででとどまることなく、当事者との関わり合いや交流をする体験を通して、福祉に対する個々の意志がもてるようにさせたい。

○ 広報・啓発活動のまとめ

活動の分野	具体的な内容
講演会・映画会・展示会等の開催	・聴覚障がい者、視覚障がい者の方を講師として、日々の体験や考え方についてご講演をしていただいた。
学校新聞、児童・生徒会新聞等の作成	・4年生児童が、障がいをもった方の講話を聴き、さらに体験学習をしたことと、自ら調べたことを壁新聞にまとめた。
調査・研究（地域・施設調査、福祉マップ、バリアフリー調査等）	・福祉学習で学んだ知識をもとに、身の回りの福祉を探す活動を行った。学校外（学校～多治見駅周辺）に出向き、身の回りにある福祉、バリアフリーを見つける活動に取り組んだ。取り組んだことは、年度末の授業参観日や発表会で発表し、報告した。

○ 体験学習のまとめ

活動の分野	具体的な内容
福祉施設等への訪問・交流活動	・4年生児童を対象に、講話に来ていただいた障がいをもった皆さんや福祉にかかわるお仕事をされている皆さんと、話の後で、質問をしたり直接話をしたりして、講話からは聴くことができない暮らしの中身について話し合う姿があった。 ・6年生の児童が多治見市民病院へ出向き、伝統の鼓笛の演奏を披露した。 ・4年生の児童が多治見市民病院へ出向き、クリスマスコンサートで合唱を披露した。
地域での訪問・交流・体験活動	・4年生の児童が、校区に住む高齢者（独居老人）の皆さんへ、年賀状を書いて送った。送った方からの返信もあり、児童が活動の意義を味わうことができた。 ・年賀状を送付する高齢者の皆さんのリストは、社会福祉協議会からお知らせいただいた。
学校行事への招待	・「福祉」について体験したり学習したりしたことをもとに、1年間の学習をまとめ、学習発表会を行った。学習発表会には、この1年間様々な体験や学習を支えていただいた、総合福祉センターの職員さんを招いて、発表を聴いていただいた。 ・パラスポーツの一つである「ボッチャ」に熱心に取り組んだ。障がいをもった方や地域の方とのボッチャ交流会、さらには授業参観日で保護者とのボッチャ交流会を通し、パラスポーツの意義を広く、深く理解した。
美化・環境整備活動等	・「花いっぱい運動」として、まちづくり市民会議の皆さんと花の苗を植えたり、花壇の整備をした。
福祉体験	・聴覚障がい者体験、視覚障がい者体験、手話体験、パラスポーツ（ボッチャ）体験 など、様々な福祉体験をした。
学校行事外の参加活動	
収集・募金活動	・「赤い羽根共同募金」では、懇談会や参観日に来校した保護者の皆さんに協力をお願いした。募金で集めたお金は、総合福祉センターを通して寄付をした。
学校間の情報交換・交流等	
その他	



小泉小学校



○ 今年度の重点活動

テーマ

【思いやりと感謝の気持ちのあふれる子】

内 容

第4学年において、視覚障がいがある方の体験（白杖体験・アイマスクの体験）や、聴覚障がいの方の講話、高齢者疑似体験、ボッチャ体験・交流会を通して、障がいでの不便になるところを見つけ、自分ができることを考える。

生徒のコメント

目が不自由だったり、高齢者になったりするとどんなことが大変なのか、体験をしてみてもはじめて分かりました。私たちにできることがあったら、声をかけたいと思いました。ボッチャ交流会では、年齢や障がいに関係なく楽しめ、地域の方々とこれからも一緒にやりたいと思いました。

○ 活動面での総括

◎評価できること

白杖体験・アイマスク体験、視覚しょうがい者の方の講話、高齢者疑似体験、ボッチャ交流会など多様な福祉体験をしたことで、福祉についての理解が深まり、相手の立場に立って考えることの大切さがわかった。

△今後の課題

福祉体験を通して学んだことを、自分の身近な人や地域で出会った体の不自由な人に対しての行動に移せるようにすること、また、周りの人たちに対して、相手の立場に立って思いやりの気持ちをもって接することにつなげる。

○ 広報・啓発活動のまとめ

活動の分野	具体的な内容
講演会・映画会・展示会等の開催	・学習して学んだことを授業参観で発表会を開いた。
学校新聞、児童・生徒会新聞等の作成	・学習したことや講話を聞いて学んだことを新聞にまとめた。
調査・研究（地域・施設調査、福祉マップ、バリアフリー調査等）	・特記事項なし

○ 体験学習のまとめ

活動の分野	具体的な内容
福祉施設等への訪問・交流活動	・地域の高齢者とのボッチャ交流会(4年生)
地域での訪問・交流・体験活動	・独居高齢者との年賀状の交流(4年生) ・わら打ち・縄蒷い体験(3年生) ・昔遊び体験(1年生)
学校行事への招待	・感謝の会招待(2年生) ・ふるさと探検学習発表会招待(3年生)
美化・環境整備活動等	・環境委員の花植え活動
福祉体験	・アイマスク体験 ・白杖体験 ・聴覚障がい者の方の講話 ・高齢者疑似体験 ・ボッチャ体験
学校行事外の参加活動	・特記事項なし
収集・募金活動	・絵本どうぞの会・能登半島支援(PTA)
学校間の情報交換・交流等	・特記事項なし
その他	・特記事項なし



池田小学校



○ 今年度の重点活動

テーマ 【福祉体験を通して、福祉への関わりを考えよう。】
内 容 車いす体験、アイマスク・白杖体験、高齢者疑似体験、聴覚障がいの方の話を聞く会、視覚障がいの方の話を聞く会
生徒のコメント 高齢者疑似体験をしてみて、階段を下りた時、膝が曲がらなくて怖かった。それに、目が見えないし聞こえないので、とても心細く感じた。だから、高齢者の方も怖い思いをする人が多いのではないかと思った。もし、困っている人がいたら、今日教えてもらったことを使って、進んで声をかけて手助けしたいです。

○ 活動面での総括

◎評価できること 車いす体験、アイマスク・白杖体験、高齢者疑似体験、聴覚障がいの方の話を聞く会、視覚障がいの方の話を聞く会など、体験的な活動を行うことができた。
△今後の課題 パラスポーツ体験や学んだことを学校生活や地域に生かしていくこと。

○ 広報・啓発活動のまとめ

活動の分野	具体的な内容
講演会・映画会・展示会等の開催	
学校新聞、児童・生徒会新聞等の作成	・児童会による「赤い羽根共同募金」の呼びかけ
調査・研究（地域・施設調査、福祉マップ、バリアフリー調査等）	

○ 体験学習のまとめ

活動の分野	具体的な内容
福祉施設等への訪問・交流活動	
地域での訪問・交流・体験活動	・高齢者（独居老人）への年賀状
学校行事への招待	
美化・環境整備活動等	
福祉体験	・5年生の総合的な学習の時間における車いす体験、アイマスク・白杖体験、高齢者疑似体験、聴覚障がいの方の話を聞く会、視覚障がいの方の話を聞く会
学校行事外の参加活動	
収集・募金活動	・赤い羽根共同募金
学校間の情報交換・交流等	・居住地校交流（東濃特別支援学校）
その他	



市之倉小学校



【1. 視覚障害について知ろう】



【2. 聴覚障害について知ろう】



【3. 車イス体験をしよう】

○ 今年度の重点活動

テーマ

【障害をもつ方について理解し、地域の方と交流しよう。】

内容

今年度も、障害をもつ方を講師に招き、講演や体験活動を行った。また、地域の方に一年間の感謝の気持ちを込めて雑巾にメッセージを書き、自由に使ってもらえるよう公民館に置かせていただいた。

- 1 視覚障害について知ろう。(全校)
- 2 聴覚障害について知ろう。(6年)
- 3 車イス体験をしよう。(6年)
- 4 地域の方に感謝の気持ちを伝えよう。(6年)

児童のコメント

- 1 困っている人に自分から声をかけたり、自転車や自動車が来て危ない時には助けたりしていきたい。(2年)
- 2 障害をもつ方の変えを知ることができた。これからは自分にやれることをして助けていきたい。(6年)
- 3 普段、自分が見えていることが当たり前の生活だった。話を聞き、それが当たり前のことではないことを知った。誰かが困っていたら、やさしく後ろから声をかけたり肩をポンツとしたりし、手を持ち歩幅を合わせて歩きたい。(6年)
- 4 私たちのことをいつも見守り支えてくださった地域の方に、「一年間ありがとうございます。」「これからもよろしくお願いします。」の気持ちを込めて、雑巾づくりをした。(6年)

○ 活動面での総括

◎評価できること

講演だけでなく、体験活動を行うことで児童が自分事として考えることができた。また、障害をもつ方も、いろいろなことに挑戦し活躍していることを知ることで、心を動かされ、これからの自分について考えるよい機会となった。

△今後の課題

今年度同様、6年生の総合的な学習の時間「福祉についての学習」に加え、全校児童で話を聞くことができる機会を設けていく。

○ 広報・啓発活動のまとめ

活動の分野	具体的な内容
講演会・映画会・展示会等の開催	・視覚障がいの方を招いて全校児童に講話していただいた。 ・聴覚障がい者の方を招いて6年生に授業をしていただいた。
学校新聞、児童・生徒会新聞等の作成	
調査・研究（地域・施設調査、福祉マップ、バリアフリー調査等）	

○ 体験学習のまとめ

活動の分野	具体的な内容
福祉施設等への訪問・交流活動	社会福祉協議会からの依頼で、地域の高齢者に年賀状を送った。
地域での訪問・交流・体験活動	市之倉地域の方に感謝の気持ちを伝える雑巾を市之倉公民館に置かせていただいて、独居の方に持って行っていただいた。その雑巾には、6年生がメッセージを付けた。
学校行事への招待	15名の地域の方を招いて、1年生活科「昔遊びの会」を行った。
美化・環境整備活動等	学校の卒業清掃・地域のごみ拾い（6年）
福祉体験	6年生が、車いす体験を行った。 特別支援学級の児童が、ボッチャ体験を行った。
学校行事外の参加活動	
収集・募金活動	
学校間の情報交換・交流等	
その他	



滝呂小学校



○ 今年度の重点活動

テーマ

【福祉に関わる学習を通じて、その状態におかれた方々と共生していく意識や態度を育てる。】

内 容

視覚障害者や聴覚障害者の講話を聞くことを通して、障害について知り、障害者と「共に生きる」ことの意味を考える。また、点字体験・アイマスク体験・白杖体験・高齢者疑義体験を通して、相手の立場や状況に合わせた支援の仕方があることを理解する。

生徒のコメント

「白杖体験が一番心に残りました。目が見えないと普段の平坦な道も怖いけど、あと何段で降りられるかわからない中、白杖とヘルパーさんだけが頼りで降りる階段は転んでしまいそうでとても怖かったです。私は目の見えない人が困っていたら助けたいと思いました。」「高齢者疑似体験をする前は、自分は元気で年をとっても元気に動けるだろうと思っていましたが、足が自由に動かないし音も聞きづらく目も見えにくく、高齢の大変さを実感し、相手の立場に立つことの大切さがわかった。

○ 活動面での総括

◎評価できること

障害を身近なこととして捉え、より深く理解したいと考えることができた。

△今後の課題

講演会を通して感じた興味関心を、その後の探究活動につなげること。

○ 広報・啓発活動のまとめ

活動の分野	具体的な内容
講演会・映画会・展示会等の開催	・聴覚障害をもっている方（誠子さん）の講話を聴く ・視覚障害をもっている方（小栗大輔さん）の講話を聴く ・車いす体験 ・高齢者疑似体験
学校新聞、児童・生徒会新聞等の作成	
調査・研究（地域・施設調査、福祉マップ、バリアフリー調査等）	・「福祉」に関する様々なテーマから、自分の興味のあるものを選び、タブレット端末や図書館を活用しながら、調べ学習を進めて、レポートを作成した。また、作成したレポートについて、発表会を行った。

○ 体験学習のまとめ

活動の分野	具体的な内容
福祉施設等への訪問・交流活動	
地域での訪問・交流・体験活動	・独居老人への年賀状作成／送付
学校行事への招待	
美化・環境整備活動等	・学校花壇の植苗 ・地域の公園のごみ拾い・清掃 ・校内清掃
福祉体験	・高齢者疑似体験 ・アイマスク・白杖（視覚障がい者）体験 ・車いす体験 ・点字体験
学校行事外の参加活動	
収集・募金活動	
学校間の情報交換・交流等	
その他	・ソーシャルスキルトレーニングの教材を用いて、自身のトレーニングや相互理解を図る。



南姫小学校



○ 今年度の重点活動

テーマ

【誰もが過ごしやすい社会を考える】

内 容

地域の福祉施設の方との交流

生徒のコメント：

- ・UDを意識して作ったので、喜んで遊んでもらえてうれしかった。
- ・障がいの有無に関係なく、これからはUDが必要になると思いました。なのでこれからは、UDを大事にしないといけなかったと思います。

○ 活動面での総括

◎評価できること

陶技学園との交流を計画する段階から、UDに興味をもち、「誰もが使いやすい・過ごしやすい」という意識を児童一人一人がもつことができた。交流するときや成果を発表する際には、UDを生かした資料作りにも取り組むことができ、お世話になった陶技学園の方や社会福祉協議会の方に発表することもできた。

△今後の課題

学んだことや意識が途切れぬように次学年へ伝える活動を取り入れる。また、来年度陶技学園交流することや社会福祉協議会とのコラボレーションを引き継げるようにしていく。

○ 広報・啓発活動のまとめ

活動の分野	具体的な内容
講演会・映画会・展示会等の開催	・陶技学園との遊びを通じた交流会 ・視覚障がいをもつ方のお話を聞く会 ・授業参観の場での成果発表会
学校新聞、児童・生徒会新聞等の作成	・学校報告、学校ホームページ、学年通信による保護者、地域への福祉活動の広報。
調査・研究（地域・施設調査、福祉マップ、バリアフリー調査等）	・校区の福祉施設（陶技学園）の見学の実施 ・社会福祉協議会とのコラボによる福祉体験（点訳、アイマスク、車いす） ・授業参観による学習発表会（社会福祉協議会、陶技学園、多治見市議来校）

○ 体験学習のまとめ

活動の分野	具体的な内容
福祉施設等への訪問・交流活動	・陶技学園の施設見学 ・陶技学園との交流
地域での訪問・交流・体験活動	・独居老人との年賀状交流 ・姫保育園の園児との交流
学校行事への招待	・5年生の2月の授業参観（福祉の学習で学んだこと）に陶技学園の職員の方を招待
美化・環境整備活動等	
福祉体験	・5年生による車椅子体験
学校行事外の参加活動	
収集・募金活動	・南姫中学校の活動に協力（アルミ缶収集・ペットボトルキャップ収集）
学校間の情報交換・交流等	
その他	



根本小学校



○ 今年度の重点活動

テーマ

【「人と人とのかかわりを大切に」】

<内 容>

- 宮城県石巻市でたくましく開花したひまわりの種を譲り受け、平成26年からねもと地域力の方々が、「ど根性ひまわり」を育てていることと協賛し、昨年度から学校で、「ど根性ひまわり」の種をまき、育てる活動を行った。今年度からは、4年生の防災学習としても「ど根性ひまわり」を育てることになった。育てたひまわりから採れた種を自宅で育てていただけるよう、地域の方に配付したり、児童の家庭に持ち帰ったりした。今後も続けていく。
- 学校に来校された方が気持ちよくなる環境づくりとして、特別支援学級の児童を中心に、花壇に花を植えた。花が咲くと、特別支援学級の児童が花瓶に生けるなどして校内にも飾り、学校内の児童や職員の心を和ませた。また、新入生に見てもらえる鉢花づくり（1年生）や花壇づくりなどの活動をした。
- 独居の方への年賀状交流（6年生）ができた。
- 視覚障がい者や聴覚障がい者の方に講演をしていただき、共に生きるためにはどうするとよいのかを考えた。

○ 活動面での総括

◎評価できること

「人と人とのかかわりを大切に」をテーマに、様々な福祉学習・福祉体験ができた。特に、居住地校交流では、複数回実施するなど、盛んに交流ができた。その際、来ていただいた児童やその保護者・担当の先生などから、非常に喜ばれた。将来、地域の中で生活していく上でも、これらの交流は大変意義深いと考える。

また、さまざまな人や学年での交流ができた。1年生と2年生、1年生と6年生、1年生と新1年生などが、直接的に、あるいは一部間接的に交流することができた。また、地域とのかかわりを充実させることができたことは、大人の姿から多くを学ぶ場にもなり、意義深いものとなった。

福祉体験として、数年継続している高齢者疑似体験が大変有効であると同時に視覚障がい者や聴覚障がいのある方の話を聞くことも児童にとって学ぶことが多くあった。

△今後の課題

居住地校交流は、今年度同様、充実させていく。また、地域との連携もさらに強化し、身近な人たちとのかかわりから学ぶ機会を設けていく。「古くても美しい根本小」を心掛け、環境美化活動にも力を注ぐ。今後は、高齢者福祉等の今日的課題にも目を向けていきたい。

○ 広報・啓発活動のまとめ

活動の分野	具体的な内容
講演会・映画会・展示会等の開催	
学校新聞、児童・生徒会新聞等の作成	
調査・研究(地域・施設調査、福祉マップ、バリアフリー調査等)	○6年生総合「福祉学習」において、福祉の在り方について調査し交流した。

○ 体験のまとめ

活動の分野	具体的な内容
福祉施設等への訪問・交流活動	
地域での訪問・交流・体験活動	○1年生児童が董根本幼稚園児や旭ヶ丘保育園児と交流を行った。 ○マリーゴールドや「ど根性ひまわり」の種を根本交流センターに置いていただき、地域の方に配付した。
学校行事への招待 美化・環境整備活動等	○1年生・特別支援学級：春に咲く花で学校を美しくして、新入生や来校者に喜んでもらうために、鉢や花壇にチューリップやパンジー等を植えて手入れをした。 ○4年生・特別支援学級児童が、「ど根性ひまわり」の種をまき、育てた。
福祉体験	○6年生：高齢者疑似体験として、車いすでの移動の大変さ、指先の不自由さ、早口で話されると聞き取ることが困難であることなどを体験した。また、視覚障がいや聴覚障がいのある方を招いて講演していただき、その生活の困難さなどを知ることができた。共に生きていくために必要なことを考え、学ぶことができた。
学校行事外の参加活動	
収集・募金活動	
学校間の情報交換・交流等	○居住地校交流
その他	○1,2年生 新入生を迎える会を実施し、1年生にプレゼントしたり、一緒に楽しく遊んだりして人とのつながりを大切にする時間を過ごした。



北栄小学校



○ 今年度の重点活

テーマ

【「地域の一員として、地域に貢献しようとする心を育てる」】

内 容

1. 地域の環境を美しくする活動（清掃活動）を通して、地域に貢献しようとする心を育てる。
2. 日常の身近な福祉活動の体験を通して、社会福祉への理解・関心を高め、思いやりの心を育てるとともに、福祉活動に対する実践意欲を高める。

児童のコメント

＜地域の清掃活動を通して＞

- ・通学路や普段よく使っている公園をよく見ると、側溝や草むらに空き缶やペットボトル、お菓子などの袋が意外なほど捨てられていて驚いた。
- ・汚れていたところがきれいになって、とても気持ちがよかった。

＜福祉活動を通して＞

- ・重度の感音性難聴の方の話と直接触れ合えたことで、身近にいらっしゃる障がいをもった方とのかかわり方について、これからも続けて考えていきたいと思った。

○ 活動面での総括

◎評価できること

- ・日頃、当たり前のように使っている通学路や公園にも、こんな所に？という場所にもゴミが捨てられていることに気付けた。清掃活動を通して、地域に住む一員として美化に努めることの大切さに気付くことができた。
- ・今回、障がいをもった方から直接お話を聞く機会を通して、これまではあまり身近なこととして捉えられていなかった領域にも学ぶ視点をもつことができた。

△今後の課題

- ・これから生きる子どもたちには、今回触れた障がい以外にもさまざまな障がいをもった方との共生、また、高齢になっていくにつれて、少なからずなにかしらの障がいに接するようになる展望をもちながら、視野を広げられるようにする。今後は、障がいについての見地をさらに広げるとともに、障がいをもった方々との交流や高齢者との交流を通して、さらなる理解につなげたい。

○ 広報・啓発活動のまとめ

動の分野	具体的な内容
講演会・映画会・展示会等の開催	・令和6年度は、実施せず。
学校新聞、児童・生徒会新聞等の作成	・「奉仕作業」として地域の清掃作業の様子を学校 HP で紹介した。 (令和6年度) 令和7年2月21日(金): <u>地域清掃の奉仕作業</u>
調査・研究(地域・施設調査、福祉マップ、バリアフリー調査等)	・他者(高齢者)理解を深めるため、高齢者体験キットを身に着け、廊下歩行や階段昇降を行い、身体の不自由さを実際に体験した。

○ 体験学習のまとめ

活動の分野	具体的な内容
福祉施設等への訪問・交流活動	・令和6年度は、実施しなかった。
地域での訪問・交流・体験活動	・令和6年度は、実施しなかった。
学校行事への招待	・令和6年度は、実施しなかった。
美化・環境整備活動等	・令和7年2月21日(金) 地域清掃:「地域に感謝を伝えよう」 ⇒6年生2クラスで実施。掃除中に出会った地域の方には、自ら進んで挨拶をし、「すごいね。掃除してくれてうれしいわ。ありがとう!」と声をかけてもらい、「もっときれいにしたい!」と、美しくすることへの爽快感・充実感を味わうことができた。
福祉体験	・6/10(月) 実施 ⇒重度の感音性難聴の方の話を聞き、相手を思いやる心を育んだ。 ・6/13(木) 実施 ⇒アイマスクを装着しての白杖歩行体験をし、その困難さを体感した。 ・12/3(火) 実施 ⇒6年生が、高齢者体験キットを装着し、高齢者の方が抱えている身体の扱いにくさなどを感じた。 ・12/23(月) 実施 ⇒車いすに実際に乗車し、操作の難しさや段差を越えることの困難さ等について、考えることができた。
学校行事外の参加活動	・令和6年度は、実施しなかった。
収集・募金活動	・令和6年9月17日(火)～9月30日(月) ・令和7年2月19日(水)～2月26日(水) ⇒「ベルマークの収集活動」を実施。
学校間の情報交換・交流等	・令和6年度は、実施しなかった。
その他	・令和6年度は、実施しなかった。



脇之島小学校



○ 今年度の重点活動

テーマ

【高齢者や障がいのある方について学ぼう】

内 容

福祉体験や調べ学習を通して、学習した内容を他学年に発表したり、新聞にまとめたりした。

児童のコメント

車いすに人を乗せて動かした時、段差があるところが押しづらかった。どこかにぶつかったり、乗っている人をケガさせたりしないか不安でした。近くに車いすを使っている人がいたら、できることを考えて行動したい。

○ 活動面での総括

◎評価できること

4年生の総合的な学習で行う福祉体験を通して、普段の暮らしでは気づくことがなかったお年寄りや障がいのある方の苦労や、生活の工夫を知ることができた。また、自分たちにもできることがあり、互いに助け合って暮らしていくことが大切だと学ぶことができた。

△今後の課題

知識や経験として学んだ内容を、発信する機会を今年以上に増やしたい。

○ 広報・啓発活動のまとめ

活動の分野	具体的な内容
講演会・映画会・展示会等の開催	特になし
学校新聞、児童・生徒会新聞等の作成	・福祉体験の様子を学校ホームページで紹介した。 ・福祉について学習した内容を、新聞やクイズにしてまとめた。
調査・研究（地域・施設調査、福祉マップ、バリアフリー調査等）	・福祉の学習についてまとめた新聞やクイズを３年生に向けて発表した。 ・身近な福祉施設や、マークなどについて、図書館の本やipadを使って調べた。

○ 体験学習のまとめ

活動の分野	具体的な内容
福祉施設等への訪問・交流活動	・脇之島地区を中心とした独居老人の方へ、４年生が年賀状を送った。
地域での訪問・交流・体験活動	・３年生が公民館に見学に行き、交流会を行った。 ・地域の方を講師として招き、さまざまな学習を行った。（環境教育、ラジオ体操、書初め指導など） ・４年生が地域の方と、ボッチャの交流会を行った。
学校行事への招待	特になし
美化・環境整備活動等	・環境委員会を中心にアルミ缶回収を行った。
福祉体験	・４年生が高齢者疑似体験、車いす体験、アイマスク体験などを行った。
学校行事外の参加活動	・脇之島地域行事に、地域スタッフとして登録されている児童がボランティアで参加した。
収集・募金活動	・年間を通してベルマークの収集を行った。 ・４年生が書き損じはがきの収集活動を行った。
学校間の情報交換・交流等	特になし
その他	特になし



笠原小学校



○ 今年度の重点活動

テーマ

【だれもが生活しやすい社会をつくろう】

内 容

ボランティア活動や身近な福祉活動を通して、社会福祉への理解と関心を高め、思いやりの心を培う。

・視覚・聴覚障がい者による講話・高齢者疑似体験・車いす体験・見守り活動について・独居高齢者への年賀状・パラアスリート交流・中学生との地域ボランティア活動

児童のコメント

・もし障がいがあったらとても大変だと分かった。さらに実際体験してその気持ちが分かった。困っている人がいたら助けたいと感じた。

・車いすバスケの魅力を知ることができた。一緒にプレーしてシュートも決まってうれしかった。

○ 活動面での総括

◎評価できること

・年間を通してさまざまな体験ができ、児童の社会福祉に関する理解と関心を醸成することができた。特に5年生における総合的な学習の時間において、体験的な活動が展開できた。

・中学校と連携してボランティア等の活動を進めることができた。

△今後の課題

・義務教育学校開校に向け、9か年通した内容・活動を精査していく必要がある。

○ 体験学習のまとめ

活動の分野	具体的な内容
福祉施設等への訪問・交流活動	視覚障がい者の方の講話や体験活動を通して、福祉への理解と関心を高め、地域社会やこれからの生活でどのようにかかわっていったらよいか考えた。
地域での訪問・交流・体験活動	地域の独り住まい高齢者の方に年賀状を送り、地域に住む一員としてかかわった。
美化・環境整備活動等	花づくりボランティア・・・地域組織の方と連携し、地域に植える花を育てる活動を行った。
福祉体験	高齢者疑似体験・・・体験キットを使い、高齢者が体感している困り感等を実感し、どう接したらよいか考えた。
学校行事外の参加活動	地域夏祭りへのボランティア参加・・・夏祭りのボランティアスタッフとして、PTA や地域組織とともに活動した。
学校間の情報交換・交流等	各種ボランティア活動・・・笠原中学校ボランティア委員会と連携し、地域のボランティア活動に参加した。
その他	パラアスリートとの交流活動・・・カナダのパラアスリート選手や車いすバスケットボール選手との交流を通して、福祉への理解と関心を高めた。



陶都中学校



○ 今年度の重点活動

テーマ

【あいさつと地域貢献】

内 容

1. 有志によるあいさつ運動
2. 地域に落ちているごみ拾い活動

生徒のコメント

あいさつを自分から行い、それに対してあいさつを返してくれると、とてもうれしい気持ちになります。ごみ拾いも、地域に貢献できていると実感できます。

○ 活動面での総括

◎評価できること

・活動に参加する生徒が多く、学校の雰囲気により明るくなった。それにより、様々な活動に前向きな気持ちになる生徒が増えた。

△今後の課題

・ごみ拾い用の袋の数の調整が難しい。生徒数が多いと、遅めに登校する生徒のごみを拾う量は少なくなる。ごみ拾いをしようという思いが素晴らしいのだと価値付けることも大切であるため、量が多ければよいということではないが、目を見て「頑張れた」と実感できることも大切であると考えている。

○ 広報・啓発活動のまとめ

活動の分野	具体的な内容
講演会・映画会・展示会等の開催	
学校新聞、児童・生徒会新聞等の作成	
調査・研究（地域・施設調査、福祉マップ、バリアフリー調査等）	

○ 体験学習のまとめ

活動の分野	具体的な内容
福祉施設等への訪問・交流活動	
地域での訪問・交流・体験活動	
学校行事への招待	
美化・環境整備活動等	・ 地域に落ちているごみを拾う活動
福祉体験	
学校行事外の参加活動	
収集・募金活動	
学校間の情報交換・交流等	
その他	・ 有志によるあいさつ運動



多治見中学校



○ 今年度の重点活動

テーマ

【内面の輝きを求めて】

内 容

地域ボランティア活動に参加する「輝き隊」として、清掃活動や地域の行事の手伝いなど、地域住民との交流を図り、地域貢献や自己の心を磨くことを目標とする。

生徒のコメント

親子で校内のペンキ塗り、地域の方々と草刈を行い、きれいにする事ができてよかった。感謝の気持ちをもって作業をすることができた。募金活動では、目標人数100人を超えることができ、たくさんの募金を送ることができてよかった。

○ 活動面での総括

◎評価できること

生徒（輝き隊コーディネーター）が自主的に運営し、地域行事や公民館等の催し物にて活躍している。学校運営協議会の中に保護者のコーディネーター役を配置できたことで、募集に関わる連絡ミスが少なくなり、輝き隊のボランティア活動がスムーズに行えるようになった。

△今後の課題

ボランティア活動に対する責任感のなさでドタキャンする生徒がいること。輝き隊の募集についてある程度の基準を設けること。

○ 広報・啓発活動のまとめ

活動の分野	具体的な内容
講演会・映画会・展示会等の開催	
学校新聞、児童・生徒会新聞等の作成	学校だより、ホームページ、委員会ポスター、昼の放送、掲示で参加募集を行ったり、活動報告、生徒の活躍や地域からの感謝の言葉を伝えたりした。
調査・研究（地域・施設調査、福祉マップ、バリアフリー調査等）	

○ 体験学習のまとめ

活動の分野	具体的な内容
福祉施設等への訪問・交流活動	7 月滝呂防災探検隊 8 月サンホーム滝呂科学の広場 認知症ってなあに？
地域での訪問・交流・体験活動	4 月 29 区桜まつり 5 月私の主張滝呂校区大会 6 月私の主張養正校区大会、多治見市大会 7 月 29 区夏祭り 坂上児童館乳幼児水遊び 8 月魚つかみ大会 3 8 区夏祭り 10 月滝呂ぶらぶら祭り、ふれあいグラウンドゴルフ 11 月養正公民館祭り 12 月坂上児童館クリスマス会、鏡もち作り
学校行事への招待	
美化・環境整備活動等	校内での花苗育成→滝呂校区青少年まちづくり市民会議主催「花いっぱい運動 花里親募集」地域に花苗を配付 ① 春 6/23 ②秋 11/24 校内花壇整備、校内ベンチ手すりペンキ塗り作業（3 年親子） ゴミ拾い登校（通学路清掃）
福祉体験	
学校行事外の参加活動	1 2 月 K 組ハンドベル演奏会（養正公民館）
収集・募金活動	赤い羽根共同募金（11/18～12/6）→21,788 円
学校間の情報交換・交流等	4 校交流会（多治見中・養正小・滝呂小・東農特別支援学校）の開催 1/28
その他	



平和中学校



○ 今年度の重点活動

テーマ

【全校地域清掃】

内 容

通学路、昭和公園の清掃活動

生徒のコメント

去年に引き続き、昭和公園や陶彩の道を掃除しました。冬はごみが少ないため、朝生徒がそれぞれごみを拾いながら登校する活動を初めて行いましたが、たくさん集まり良かったです。

○ 活動面での総括

◎評価できること

地域の方へ挨拶活動もかねてできた。

△今後の課題

地域清掃以外でも地域に貢献しようとする思いを育てさせたい。

○ 広報・啓発活動のまとめ

活動の分野	具体的な内容
講演会・映画会・展示会等の開催	
学校新聞、児童・生徒会新聞等の作成	生徒会が運営している校内の新聞に活動の様子を取り上げた。
調査・研究（地域・施設調査、福祉マップ、バリアフリー調査等）	

○ 体験のまとめ

活動の分野	具体的な内容
福祉施設等への訪問・交流活動	・地域の行事でボランティアとして積極的に取り組んだ。少年の主張大会など ・吹奏楽部が地域行事に参加した。
地域での訪問・交流・体験活動	2年生が12月に職場体験で保育園や病院などで体験活動を行う予定。
学校行事への招待	命の授業で保護者を招待した。
美化・環境整備活動等	・生徒会が中心となり社会貢献活動の一環として、「全校地域清掃」を実施し、通学路や遊歩道の美化活動に取り組んだ。 ・地域の方の家に出向き、清掃する訪問掃除を行った。
福祉体験	・保育実習をおこなった。
学校行事外の参加活動	少年の主張大会や、児童館ボランティアなど地域の行事にボランティアとして取り組む生徒が見られた。
収集・募金活動	・生徒会が中心となりアルミ缶・ペットボトルキャップの回収を行った。
学校間の情報交換・交流等	・連合生徒会の場において、本校の実践を発表し、他校との交流を図っている。
その他	



小泉中学校



○ 今年度の重点活動

テーマ

【中高生がイベントの企画・運営をし、地域に貢献する】

内 容

地域のイベントの運営や校内の募金活動、アルミ缶・牛乳パック回収、中高生スポーツ

生徒のコメント

地域に貢献できたと感じた。高校生になっても活動を続けたい。自分たちで企画をすることはとても大変だったが、企画が成功したとき、達成感を感じることができた。

○ 活動面での総括

◎評価できること

イベントのない時期に、自分たちで企画したイベントを開催し、運営することができた。

△今後の課題

3年生中心の活動ではなく、積極的な1、2年生の参加が望まれる。高校生が、中学生のリーダーとして、小泉ボランティアズを引っ張っていく役割を担ってほしい。

○ 広報・啓発活動のまとめ

活動の分野	具体的な内容
講演会・映画会・展示会等の開催	小泉公民館でのこころのハンドメイド展で、活動をまとめたポスターブースを出した。
学校新聞、児童・生徒会新聞等の作成	活動報告を、中学校へ通う各小学校に掲示し、広く活動を知ってもらえるようにした。
調査・研究（地域・施設調査、福祉マップ、バリアフリー調査等）	

○ 体験学習のまとめ

活動の分野	具体的な内容
福祉施設等への訪問・交流活動	
地域での訪問・交流・体験活動	小泉交流センターでの「中高生スポーツ」で、軽スポーツの企画・運営に携わった。小泉交流センターの土俵を活用し、相撲体験会と相撲大会を実施した。
学校行事への招待	
美化・環境整備活動等	校内での花いっぱい活動に参加、小泉交流センターのクリーン大作戦、根本交流センターの清掃活動に参加した。
福祉体験	
学校行事外の参加活動	
収集・募金活動	校内でのアルミ缶・牛乳パック回収、校内でのユニセフ募金、赤い羽根共同募金に参加した。
学校間の情報交換・交流等	夏休みに小泉保育園で交流を行った。また、昼休みに、小泉小学校の運動場に行き、小学生と遊んだ。
その他	



南ヶ丘中学校



○ 今年の重点活動

テーマ

【地域貢献できる生徒会（福祉）活動】

内 容

生徒会（福祉委員会）を中心となり、地域（通学路）清掃や挨拶運動を日常的に行ったり、各種募金活動や福祉施設への車いす贈呈に取り組んだりする。

生徒のコメント

地域の方々に支えていただいていることに感謝し、「地域のために」という思いで、地域清掃や募金活動に取り組むことができている。

○ 活動面での総括

◎評価できること

生徒会リーダーを「MSJ リーダーズ（岐阜県警）」に登録し、「全校のリーダー」としてだけでなく「地域でも活躍できるリーダー」として活躍していこうとする意欲が向上した。

△今後の課題

特定の活動日には、協力してくれる生徒は多いが、「地域で活躍（貢献）できる南中生」という意識を全校生徒がもっと強くもてるように、日常活動から工夫していきたい。

○ 広報・啓発活動のまとめ

活動の分野	具体的な内容
講演会・映画会・展示会等の開催	
学校新聞、児童・生徒会新聞等の作成	月に一回、生徒会執行部より「生徒会新聞」を発行し、地域（通学路）清掃、アルミ缶回収、共同募金等への参加呼びかけをしたり、生徒の参加状況を報告したりしてきた。
調査・研究（地域・施設調査、福祉マップ、バリアフリー調査等）	

○ 体験学習のまとめ

活動の分野	具体的な内容
福祉施設等への訪問・交流活動	
地域での訪問・交流・体験活動	10月、地域の福祉施設や各種事業所が受け入れてくださり、2年生職場体験学習を実施することができた。
学校行事への招待	アルミ缶回収・リサイクルによる収益で、地域の福祉施設へ車いすを寄贈する贈呈式を計画してきたが、収益金が目標金額に達しておらず、施設訪問の実現はできていない。
美化・環境整備活動等	生徒会（福祉委員会）を中心に、地域（通学路）清掃活動を実施した。この際に使用する道具等を、福祉共育支援補助金で購入した。
福祉体験	
学校行事外の参加活動	年度初めに、各地区の「子どもスタッフ」に登録した生徒が、公民館や児童センターの催し物の運営に協力してきた。
収集・募金活動	10/15(火)～12/6(金)赤い羽根共同募金 11/1(金)赤い羽根共同 MSJ リーダーズ校門募金活動 アルミ缶回収 → 地域の福祉施設へ、車いす贈呈へ ペットボトルキャップ回収 → 発展途上国へのワクチン
学校間の情報交換・交流等	
その他	



北陵中学校



○ 今年度の重点活動

テーマ

【LINK ～「つなぐ」活動～】

内 容

これまでの北陵中学校の良さ、日常と行事、他学級や他学年、そして地域をつなぐ活動を企画、運営した。

生徒のコメント

今年度は、様々な企画をしました。全校や地域の方が一緒になって、様々なことに挑戦できたことがとても楽しかったです。体育祭での、エキシビジョンマッチやスカイブルーリボン活動、昨年度から引き継いださわやかクリーンウォーク、全校レクなど、とても大きなことを経験することができました！どの活動も、本当に充実した活動になったと思います。

○ 活動面での総括

◎評価できること

○北陵中の5本柱（挨拶・授業・掃除・合唱・ボランティア）について、地域のつながりを大切にしながら、活動をすることができた。また、「多治見市中学校宣言」との関連も意識した活動をしくみ、活動を行うことができた。

<具体>

- ・「挨拶と絆の日」にかかわらせ、北栄小学校生徒や地域の方とともにあいさつ活動を行うことができた。
- ・地域の幼稚園・保育園児を学校に招き、手作り絵本の読み聞かせや遊びを行うことができた。
- ・体育祭でのエキシビジョンマッチ「借り人競争」や、介護老人施設などでこへ訪問、さわやかクリーンウォークなど、地域とのつながりも大切に活動を行うことができた。

△今後の課題

- ・たくさんの活動を行うことができたが、生徒会役員の負担が大変大きかった。今後も充実した生徒会活動を持続させていくためにも、活動内容を取捨選択していくことや、体制を整えていくことが必要であると考え、今後もよい活動を続けられるよう、考えていく。

○ 広報・啓発活動のまとめ

活動の分野	具体的な内容
講演会・映画会・展示会等の開催	・特記事項なし
学校新聞、児童・生徒会新聞等の作成	・生徒会新聞「SKY BLUE」を発行し、仲間の良さ、活動の良さを伝え、広げることができた。データでの発行を主とした。
調査・研究（地域・施設調査、福祉マップ、バリアフリー調査等）	・北陵中学校周辺の、ポイ捨てが多い場所の調査

○ 体験学習のまとめ

活動の分野	具体的な内容
福祉施設等への訪問・交流活動	・「介護老人施設なでしこ」へ有志生徒とともに、訪問し、合唱披露を行った。「ふるさと」「上を向いて歩こう」は入所者の方とともに歌い、大変喜ばれた。
地域での訪問・交流・体験活動	・生徒会主催地域清掃「さわやかクリーンウォーク」や「あいさつ活動」「地域のボランティア活動」など、地域とともに多方面で活動を行うことができた。
学校行事への招待	・体育祭や合唱祭など、多くの方に参加していただいた。体育祭では、エバーグリーンの方にも見に来ていただいた。また、「借り人競争」を行い、保護者の方や地域の方も一緒に参加していただく競技を行うことができた。
美化・環境整備活動等	・生徒会主催地域清掃「さわやかクリーンウォーク」など、環境美化活動をより多くの生徒がかかわって進められた。
福祉体験	・特記事項なし
学校行事外の参加活動	・ボランティア募集の情報を「ロイロノート」というアプリを通し、全校で共有しながら進められたため、広く告知、多数の参加実績が残せた。
収集・募金活動	・特記事項なし
学校間の情報交換・交流等	・連合生徒会を通し、各学校の生徒会主催の取り組みを交流することで、お互いの良いところを自校でも実施しようという流れができた。
その他	・学校内で、ひびきあいの日にかかわらせ、「スカイブルーリボン活動」を実施。「相手を大切にしていこう」という意思表示に、青いリボンを身に着ける活動を行った。



南姫中学校



○ 今年度の重点活動

テーマ

【学校行事を通して、地域や諸機関との連携】

内 容

パラリンピックに出場した車いすバスケット選手との交流を通して、障がいのある方との接し方を学ぶ

生徒のコメント

車いすに乗るだけでも大変なのに、車いすを操作してバスケットボールができるのはすごい。運動量が半端ない。

○ 活動面での総括

◎評価できること

全校生徒が障がいのある方や福祉活動についての理解を深めるきっかけになった。また、障がい者に対して自分ができることを考えられるようになった。

△今後の課題

限られた分野にとらわれず幅広い分野の福祉共育についての取組をしていかなければならない。今後とも、全校体制で考えていきたい。

○ 広報・啓発活動のまとめ

活動の分野	具体的な内容
講演会・映画会・展示会等の開催	2月に元宝塚の橘幸さんによる「いのちの授業」と題しての講演会を実施。
学校新聞、児童・生徒会新聞等の作成	校内掲示、学校報、HP等に掲載
調査・研究（地域・施設調査、福祉マップ、バリアフリー調査等）	12月に地域の方、民生児童委員、防災士等による防災講話とD I G訓練を実施（1年生を対象）

○ 体験学習のまとめ

活動の分野	具体的な内容
福祉施設等への訪問・交流活動	特記事項なし
地域での訪問・交流・体験活動	園児と遊ぶ玩具や遊ぶ道具などを作成し、姫保育園で保育実習を行った。
学校行事への招待	車いすバスケットによる体験事業には、地元の市議会議員を招待し、生徒と一緒に車いすバスケットを体験してもらった。
美化・環境整備活動等	年2回の姫川清掃、夏祭り後の地域清掃等へのボランティア活動を行った。
福祉体験	1年生の総合で、車いす体験、高齢者体験、認知症サポーター養成講座による講演を実施した。
学校行事外の参加活動	地域が主催するボランティア活動(春・秋の姫川清掃・夏祭り・ミニスポーツフェスタ、グランドゴルフ、どんど焼きなど)に参加した。
収集・募金活動	生徒会を中心としたアルミ缶回収、コンタクトケース回収、ペットボトルキャップ回収などを行った。 赤い羽根共同募金も行った。
学校間の情報交換・交流等	夏と冬の多治見市連合生徒会交流会において、多治見市中学校宣言をもとに、各学校の活動内容を交流した。
その他	特記事項なし



笠原中学校



○ 今年度の重点活動

テーマ

【小中学校に向けて交流する場を作ろう】

内 容

中学校の敷地内にPlay Roomを設定し、小学生と中学生が日ごろから交流できるようにする。

生徒のコメント

パラリンピックスポーツということで、小学校1年生から中学3年生まで遊べるなど体験から思いました。小中学校になっても続いてほしいです。

○ 活動面での総括

◎評価できること

パラリンピックスポーツである「モルック」・「ボッチャ」を置くことで中学生も小学生も楽しめる場とすることができた。

△今後の課題

小学生と同じ敷地で生活をしているが、協力して活動ができていないため交流の場をもっと増やしていく必要がある。

○ 広報・啓発活動のまとめ

活動の分野	具体的な内容
講演会・映画会・展示会等の開催	
学校新聞、児童・生徒会新聞等の作成	生徒主体で情報MAXというお昼の放送で広めることができた。
調査・研究（地域・施設調査、福祉マップ、バリアフリー調査等）	

○ 体験学習のまとめ

活動の分野	具体的な内容
福祉施設等への訪問・交流活動	
地域での訪問・交流・体験活動	笠原の森での土石流模型実験・砂防堰堤の見学を行った。 笠原の森の土と木の観察を行った。 小・中学校の連携のためにPlay Roomを設置する。そこに、パラスポーツである「モルック」ができるようにした。
学校行事への招待	体育大会や合唱発表会など、より多くの方にご参加いただける形で運営することができた。
美化・環境整備活動等	火ばさみを用いて。毎週火曜日に地域清掃を行った。 回収したごみを代表委員が集め、分別した。同時に校門前や駐車場の清掃を行い、全校生徒で美化活動を行った。
福祉体験	
学校行事外の参加活動	新しく有志で構成された「ボランティア委員会」をつくり、校区内のボランティアを全校に広く告知をし、多数の生徒が参加することができた。
収集・募金活動	
学校間の情報交換・交流等	連合生徒会を通し、各学校の取り組みを交流することで各学校の良さを広めることができた。
その他	

